



# 花ごよみ

2014年  
9月17日  
130号

発行  
公財)東京動物園協会  
井の頭自然文化園

## ① ヒガンバナ

秋のお彼岸が近くなると地面から突然花茎が出てきて、赤く燃えるような花を咲かせます。

花弁は反り返り展開し、糸の様なおしべとめしべを伸ばします。花が終わると葉が出てきます。花と葉が同時に地上に現れないことから「葉見ず花見ず」と言われます。葉を伸ばしたまま冬を越し鱗茎(りんけい)に栄養を蓄え夏に地上部は枯れ休眠します。



つぼみ



ほころび始めた花弁



## ② キンモクセイ

花弁は4枚で小さなオレンジ色の花を咲かせます。花の香りが良くクチナシ、ジンチョウゲと並び「三香木」の一つとされています。中国が原産で日本には江戸時代に渡来しました。雌雄異株で日本にあるキンモクセイは雄株のため結実しません。



## ③ ハギ

「秋の七草」の一つ。万葉集でも数多く詠まれ昔から観賞されてきました。また屋根葺きや垣根の材料など有用植物としても利用されてきました。



## ⑤ マルバフジバカマ



## ④ オミナエシ



番号の場所でご覧いただけます